

令和8年度山形大学大学院社会文化創造研究科  
入学者選抜試験問題

芸術・スポーツ科学コース（造形芸術分野）

外国人留学生入試

科目名 絵画（1/2）

受験番号	
------	--

問題：

【解答例】

・明暗法

明暗法（Chiaroscuro）とは、光と影の対比を用いて対象物の立体感や質感、空間の奥行きを表現する技法である。素描においては、地色のある下地に明部を白色のハイライトで強調し、暗部には単色のハッチング（線影）やウォッシュ（筆による面的な塗り）を用いて、明暗の階調によって対象を描くことが近世に至るまで慣習的に行われた。明暗法による単色画はグリザイユとも呼ばれ、ルネサンス期の北方絵画においては、ファン・アイクの《ヘントの祭壇画》やボッショの《快樂の園》など閉翼時の祭壇画に作例が見られる。16世紀のマニエリスムや17世紀のバロックの絵画においては、カラバッジオやレンブラント、ラ・トゥールらの作品にみられるように、光の効果による劇的な明暗表現が追求された。

・印象主義

19世紀後半のフランスで、従来の古典的な主題による写実的絵画に反発して生まれた芸術運動である。技法的には、モネやシスレーに典型的にみられるように、光の変化に応ずる色調の変化を効果的に描くために固有色を否定し、筆触を小さく分割して色調を原色に還元し、伝統的・古典的な明暗表現よりも色相対比による空間表現を重視した。その背景にはシユヴルールらによる近代的な色彩理論の影響があったとされる。

しかしながら、印象主義は必ずしも体系化された理論をとまなわず、組織的にはゆるい結びつきであったため、1880年代以降は各画家の個性的な画風の進展にともないその表現は多様化した。印象主義の影響は欧米をはじめ日本にまで及び、20世紀美術の展開に大きな足跡を残している。

・テンペラ画

一般には膠や卵といった媒材による絵画を指す。テンペラの原義はイタリア語の temperare（混ぜる）から来ており、顔料と媒材を混ぜる、すなわち絵具の総称であり、西洋では油絵具の登場まで「テンペラ」は絵具一般を指す用語であった。膠や卵に油や樹脂などの油性分を乳化した乳濁液（エマルジョン）による絵画は、艶や乾燥性などにおいて今日の油彩と水彩の中間的な性質を示す。乾燥がはやくぼかしが困難なことから、しばしば線影（ハッチング）によって階調表現を行うことも技法的な特徴である。

中世から初期ルネサンス期にかけての西洋絵画の代表的作例の多くはテンペラ画である。16世紀には油彩が登場するが、ダヴィンチも《最後の晩餐》をテンペラ・グロッソ（油性分を混入した卵テンペラ）で描いており、ボッティチェリやクリヴェッリもキャリアの最後までテンペラで描いている。

令和8年度山形大学大学院社会文化創造研究科  
入学者選抜試験問題

芸術・スポーツ科学コース（造形芸術分野）

外国人留学生入試

科目名 絵画（2/2）

受験番号	
------	--

問題：

**【解答例】**

本科目の試験問題は、一義的な解答が示せない記述式の問題に該当する。解答の多様性や独自性は大学院入学試験における重要な評価ポイントであるため、解答又は解答例の記載は省略する。